

地域振興県土警察常任委員会資料

(平成25年6月7日)

- 1 JR西日本米子支社と鳥取県の連携会議の設置について
【観光政策課】・・・1ページ
- 2 「まんが王国とっとり」第1回元老院議会の開催結果について
【まんが王国官房】・・・2ページ

文化観光局

J R西日本米子支社と鳥取県の連携会議の設置について

平成25年6月7日
交通政策課
観光政策課

J R西日本米子支社と鳥取県は、昨年10月から12月に実施した「山陰デスティネーションキャンペーン」で、行政、J R、観光・交通事業者等が一体となって取り組んだことを契機に、今後も、観光振興をはじめとする地域振興を図るため、地域の中長期的な課題を共有し、その解決に向けて協働の取り組みを推進するために「連携会議」を設立しました。

1 連携会議設置の日

5月28日(火)

2 取り組み内容

- (1) 観光振興及び国内外の交流人口拡大に関すること
- (2) 地域資源の活用による山陰のブランド価値向上に関すること
- (3) 駅を核としたまちづくりに関すること
- (4) 鉄道の利便性向上及び利用促進(持続的発展)等、地域交通の課題に関すること
- (5) 地域の暮らしの安全・安心の確保に関すること
- (6) その他、協議の上で実施する地域振興に関すること

3 会議の開催

知事と支社長との意見交換(年2回程度)を実施するとともに、部長レベルでの事務連絡会(年4回程度)を開催する。

4 その他

連携会議の設置に当たり、5月28日県庁第2応接室において、平井知事と横山J R西日本米子支社長による本連絡会議に係る確認書の調印式を行いました。



「まんが王国とっとり」第1回元老院議会の開催結果について

平成25年6月7日
まんが王国官房

「国際まんが博」「国際マンガサミット」の開催により繋がりのできた県内外の漫画家、コンテンツ産業従事者、県内で意欲的に活動する関係者などの知識と経験を持つ有識者と「まんが王国とっとり」の国づくりの構想等について検討する「まんが王国とっとり元老院」を設置し、下記のとおり第1回元老院議会を開催しました。

記

- 1 日 時 平成25年5月21日(火)
- 2 場 所 特別会議室(議会棟3階)
- 3 参集範囲 知事、元老院顧問・議員、事務局(官房長)
- 4 概 要

○出席者からの意見は、おおむね次のような方向性であった。

- ・長期的な視野を持って、将来に向け夢を打ち上げる気概を持ち、県民とともに国づくりを進めていくこと。
- ・観光や産業の振興のための手段としてだけでなく、表現手法や物語としての漫画そのものの価値に光を当て楽しむこと。
- ・個々の活動を強化するとともに、地域、業種の境界を越えて、互いに連携を図ること。
- ・直感的に伝えられる漫画の長所を利用して、地域資源を地元発のコンテンツとして情報発信していくこと。自ら表現できる県民を育成すること。

○これらの意見を踏まえ、次のように取り組んでいくこととした。

- ・9月頃まで 顧問・議員をそれぞれ訪問するなどして、さらに意見を聴取する。
- ・9～10月 第2回元老院議会を開催
- ・翌2月 第3回元老院議会を開催
- ・年度内 「まんが王国とっとり国づくり構想」(仮称)を策定

5 主な発言内容

<国づくりの心構え>

○「いろいろな意見を聞いて、将来のイメージを持つこと」

いろいろな人の意見を聞きながら、そして、将来どういう着地点が待っているかイメージしながら長いスパンで取り組んでいくことが重要。

○「夢を打ち上げること」

国際まんが博は、やってよかった。インターネット上に辛辣な批判もあるが、よくも悪くも話題になるのはよいこと。将来のイメージを夢でもいいから打ち上げていくことが大切。

○「皆で一緒に思い切る、その気になること」

思い切（ってや）ること、その気になること。それが大事。普通の県民が「まんが王国だヨ、うちの県は。」と言えるようになること。地元の方々がプライドを持って言えるようになること。地元の人々とともに取り組んでいくこと。

○「徹底したこだわりを持つこと」

「妖怪とさかなのまち」にとことんこだわって、顔のみえるまちづくりに取り組んできた。まだまだ徹底してこだわっていききたい。

<国づくりの進め方>

○「意見を活かしていく工夫を」

このような会議などでは、いい意見が出ても活かされないことがある。意見を実現していくプロフェッショナルを登用・育成していくことが、これから永くやっていくには必要。

○「まず、漫画そのものを味わいつくすこと」

子どもの頃、漫画を味わい尽くしていた。観光とか産業に結びつけないで、漫画を味わい尽くすほうが長い目でみればよいのではないか。

○「取組を点から面へ」

「点」を越えることが目標。コナン通り、コナン大橋の点を面に。産業、観光、地域づくりの点を面にしていきたい。

○「地域間連携の推進」

くらすけくんのTシャツ、着ぐるみを作成。コナン（北栄町）とも「中部はひとつ」なので連携していきたい。

○「市町村それぞれが考えていく」

全県を挙げたイベントがずっとできるわけではない。市町村それぞれが考えていかなければ。例えば、何でも中途半端なところを逆手にとって何かできないものか。ソフトバンクのメガソーラーに漫画を絡めることができないか。

○「漫画を鳥取文化として継続」

国際まんが博をきっかけに漫画を鳥取文化にしていきたい。いかに継続させるか。

<漫画の活用・情報発信>

○「地元発のコンテンツを再認識して、漫画で表現」

地域発のコンテンツはとても大事。地元にあるものを再認識して表現し、外にメッセージを出していくこと。自ら表現できる人を増やすこと。

○「地元の資産を発信するメディアとして漫画は有効」

地元の資産（例：武内宿禰尊）を全国発信するには、漫画はメディアとしていいのではないか。

○「ツールとしての漫画の活用」

漫画には、芸術としての方向性とツールとしての方向性がある。ツールとしては、伝えたいことを直感的に伝えるに当たって、教育やビジネスの現場で真面目に用いられ、県民の理解を得やすい。また、ロシアやアジア諸国への（訪日旅行の）働き掛けでは、漫画がきっかけになり得る。

「まんが王国とっとり」元老院メンバー一覧

区分	氏名等
顧問	ちば てつや
	里中 満智子
	赤井 孝美
議員	河原 正彦 (鳥取環境大学副理事長)
	住川 英明 (鳥取大学地域学部教授)
	白井 利光 (明治大学学術・社会連携部長)
	小坂 俊夫 (京都国際マンガミュージアム)
	原口 尚子 ((株)水木プロダクション代表取締役)
	寺西 竜也 (コンテンツ産業関係者)
	木谷 清人 ((公財)鳥取市文化財団理事長)
	岸田 寛昭 (NPO未来理事長)
	久保田 孝 ((株)DARAZ代表取締役)
	大田 斉之 (鳥取市経済観光部長)
	大江 淳史 (米子市経済部長)
	片山 暢博 (倉吉市企画振興部長)
	伊達 憲太郎 (境港市産業部長)
	松本 昭夫 (北栄町長)
細羽 正 (鳥取県文化観光局長)	
事務局	前田 修 (鳥取県文化観光局まんが王国官房長)